Pioneer sound.vision.soul **取扱説明書**

S-A77BS

スピーカーシステム

このたびは、パイオニアの製品をお買い求めいただきましてまことにありがとうございます。
この取扱説明書をよくお読みになり、正しくお使いください。
なお、「取扱説明書」は「保証書」、「ご相談窓口・修理窓口のご案内」と一緒に必ず保管してください。

安全に正しくお使いいただくために

絵表示について

この取扱説明書および製品への表示は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。
その表示と意味は次のようになっています。
内容をよく理解してから本文をお読みください。

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が損害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

△記号は注意（警告を含む）しなければならない内容であることを示しています。

⃠記号は禁止（やってはいけないこと）を示しています。

●記号は行動を強制したり指示する内容を示しています。

音のエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては気になるものです。隣近所への思いやりを十分にいたしましょう。ステレオの音量は貴方の心がけ次第で大きくも小さくもなります。
とくに静かな夜間には小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞などには特に気を配りましょう。近所への音が漏れないように窓を閉め、お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

キャビネットのお手入れ

通常は、柔らかい布で乾拭きしてください。汚れがひどい場合は水で5～6倍に薄めた中性洗剤に柔らかい布を浸してよく絞ったあと、汚れを拭き取り、そのあと乾いた布で拭いてください。アルコール、シンナー、ベンジン、殺虫剤などが付着すると印刷、塗装などがはげることがありますのでご注意ください。また、化学ぞうきん等をお使いの場合は化学ぞうきん等に付属の注意事項をよくお読みください。

ご使用の前に

❗ このスピーカーシステムの公称インピーダンスは、6Ω（オーム）です。負荷インピーダンスが 4～16Ωのステレオアンプ（スピーカー出力端子に 4～16Ωの表示があるもの）へ接続してお使いください。

- 同軸ユニットのトゥイーター（ドームトゥイーター）には強力な磁気回路を用いています。鉄などの磁性体を不用意に近づけないでください。振動板を破損する恐れがあります。
- 振動板は、外力により強い衝撃を与えますと破損することがあります。振動板には手を触れないでください。

⚠ スピーカーを過大入力による破損から守るため下記の注意事項をお守りください。

- 許容入力以上を入力しない。
- 本機を含むAV機器をアンプへ接続するときはアンプの電源をOFFにする。
- グラフィックイコライザーで高音を大幅に増強する場合、音量を上げ過ぎない。
- 小出力アンプで無理に大きな音を出さない（アンプの高調波歪が増え、スピーカーを破損することがある）。

⚠ 注意

［設置］

- ぐらついた台の上や傾いたところなど不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。

- テレビ、オーディオ機器等に本機を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続してください。また、接続は市販のコードを使用してください。

- 本機の上にテレビやオーディオ機器を載せて移動しないでください。倒れたり、落下してけがの原因となることがあります。

- 壁や天井に取り付けたり、棚の上など高い所に設置しないでください。グリルは取り外し可能な構造なので、きちんと取り付けていないと、グリルが外れて落ちたりしてけがの原因になることがあります。

［使用方法］

- 長時間音が歪んだ状態で使わないでください。スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。

- 本機に乗ったり、ぶら下がったりしないでください。特にお子様はご注意ください。倒れたり、こわれたりしてけがの原因になることがあります。

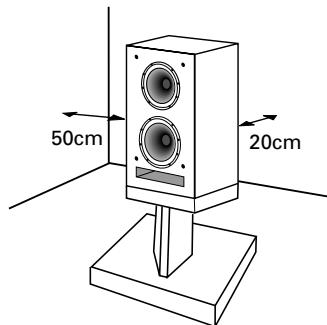
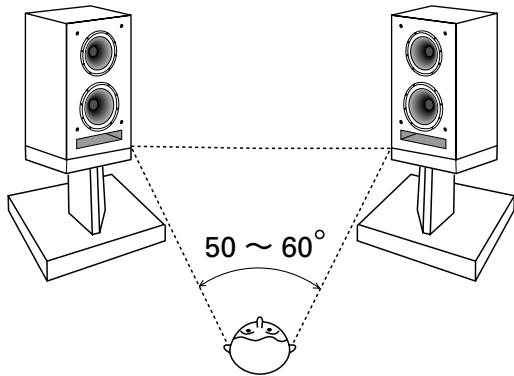
- 本機の上に重いものや外枠からはみ出るような大きなものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下してけがの原因となることがあります。

設置について

スピーカーシステムの再生音は、リスニングルームの条件によって微妙な影響を受けやすいものです。設置する場所を考慮し、最適な状態でご使用ください。

- このスピーカーシステムはブックシェルフ型です。床に直接置くと床面からの音の反射が大きくなり低音部が強調されて聴きづらくなります。この場合は置台を使用して床面から離してください。一般的には、高音用のスピーカー（トゥイーター）とリスナーの耳の高さが同じになるように設定すると良い結果が得られます。なお、置台にはスピーカースタンド（CP-A77）をお勧めします。
  CP-A77をお使いのときは、落下防止のため、必ずスピーカーシステムをネジで固定してください。

詳しくはCP-A77の取扱説明書をご覧ください。

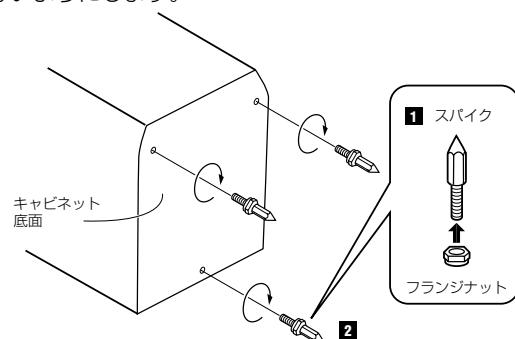
- このスピーカーシステムは、約15kgの重量がありますので設置場所は床面のしっかりした場所を選び、壁面からは、図に示す程度の距離を目安にして設置してください。後壁からの距離で低音の量感が調整できます。側壁からの距離で左右の音質差がないよう調整してください。

- 左右のスピーカーはリスニングポジションに対し等距離になるよう設置すると自然なステレオ感が得られます。スピーカーコードも同じ長さになるようにしてください。

- 和室など壁が透過性の場合は、スピーカーシステム背面をできるだけ壁に沿わせるか、反射性の物を背面に設置することをお勧めします。
- 左右のスピーカーシステムの前面がテレビ等の画面となるべく同一平面になるように置いてください。
- テレビ等の画面と組み合わせて、より良好な広がりのあるサウンドを実現するためには、テレビ等の画面を左右のスピーカーシステムの中央に設置し、左右のスピーカーシステムを聴取位置から約50°〜60°の角度に設置するのが理想的な置き方です。
- 洋間など壁面が反射または共振しやすい部屋では壁面にはカーテンで、また床面へはじゅうたんなどで処理することをお勧めします。カーテンは部屋の隅まで入れると音のこもりが少なくなります。またスピーカーの対向面が固い壁の場合も厚手のカーテンで処理をすると定在波の発生を防ぎ良い結果が得られます。

設置上の注意

- 本機はキャビネット表面に天然木の突板および集成材を使用しております。直射日光のあたる場所や、暖房器具の近くには設置しないでください。天然木の収縮によるキャビネットの変形、変色およびスピーカーが故障する原因になります。
- スピーカーシステムは重いため、不安定な場所に設置するのは大変危険ですのでおやめください。

スパイクの取り付け方

このスピーカーシステムには、スパイクおよびスパイク受けが付属されています。より良い音で再生するために、これらの使用をお勧めします。

1. スパイクにフランジナットを取り付けます。
2. それをキャビネット底面の金属製鬼目ナット（M6）を打ち込んであるネジ部の3カ所にねじ込みます。
3. スパイクが載る設置場所の部分に、あらかじめスパイク受けを3カ所置いておきます。
4. フランジナットの高さを調整し、キャビネットにガタツキがないようにします。

ご注意

- 本機は約15Kgの重量があるため、傾けながらスパイクの取り付け作業を行うことは大変に危険です。キズのつかない柔らかい布などの上に寝かせて作業してください。

スパイク受けを使用せずにスパイクだけを使用した場合、設置した床などにキズを付ける可能性があります。スパイクを使用する場合は、スパイク受けを使用することをお勧めします。

ステレオアンプとの接続

接続するにあたって、本機にはスピーカーコードは付属しておりません。スピーカーコードは次の点に注意してお選びください。

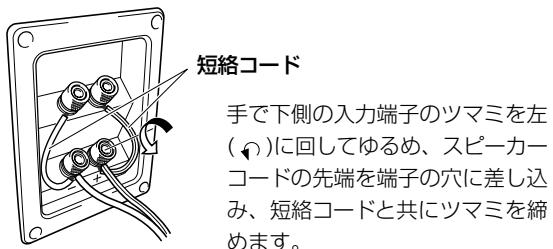
- できるだけ太い芯線のものを使用し、必要以上に長くしないでください。
- 左右の長さが異なる場合は、長い方に合わせて同じ長さにして使用してください。
- 種類により固有のキャラクターを持つものがあります。注意してご使用ください。
- 接触抵抗ができるだけ小さくなるように、スピーカー端子とアンプへの接続はしっかり固定してください。

コードの接続

① ステレオアンプの電源スイッチを切ってください。(POWER OFF)

② スピーカーシステム裏側の入力端子(下側)へ、スピーカーコードを接続します。入力端子の極性は赤がプラス(+)、黒がマイナス(−)です。

③ スピーカーコードをアンプのスピーカー出力端子につなぎます。(詳しくは、アンプの取扱説明書を参照してください。)

手で下側の入力端子のツマミを左( )に回してゆるめ、スピーカーコードの先端を端子の穴に差し込み、短絡コードと共にツマミを締めます。

■ 本機の入力端子はバナナプラグでの接続もできます。

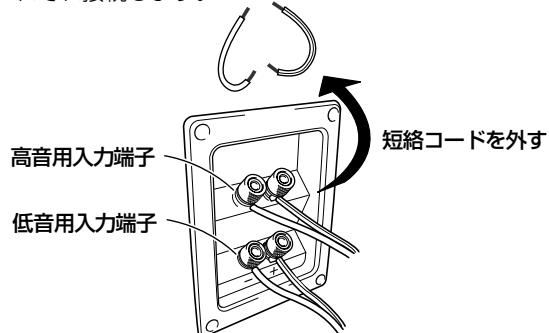
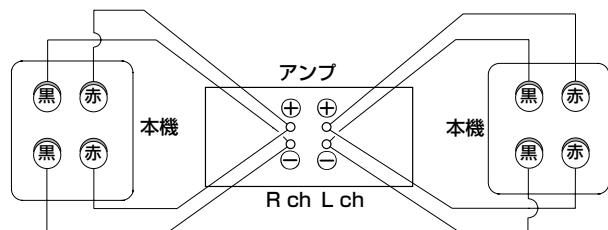
- 端子に接続したあとコードを軽く引いて、コードの先端が端子へ確実に接続されていることを確かめてください。不完全な接続は、音がとぎれたり、雑音が出たりする原因となります。
- コードの芯線がはみ出して、芯線どうしが触れたりするとステレオアンプに過大な負荷が加わって動作が停止したり、故障することがあります。
- ステレオアンプに接続したときに、片方（右または左）のスピーカーシステムの極性（+、−）を間違ってつないだ場合、正常なステレオ効果が得られなくなります。

■ バイワイヤリング接続

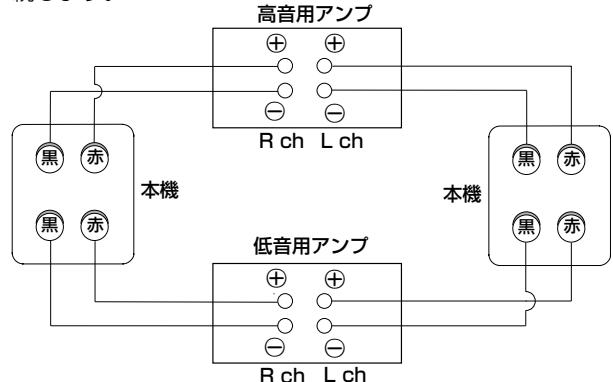
本機は、バイワイヤリング接続が可能です。スピーカーコードは片チャンネルあたり低音用と高音用のそれぞれに２本必要です。低音用と高音用にそれぞれ異なったコードを使用し、変化のある音色を楽しむこともできます。

① ステレオアンプの電源スイッチを切ってください。(POWER OFF)

② 入力端子の2本の短絡コードを外します。（高音用スピーカーと低音用スピーカーが分割される）外した短絡コードはなくさないように、大切に保管してください。

③ 入力端子の上側には高音用、下側には低音用コードをそれぞれ接続します。

④ アンプからのコードは図のように接続してください。この際、コードの極性を逆にすると著しく音質を損なうので注意してください。

⑤ 通常の接続に戻す場合は、すべてのスピーカーコードを外してから、元のとおり短絡コードを取り付けてください。万一、短絡コードを紛失した場合は短く切ったスピーカーコードで代用することができます。

■ バイアンプ接続の場合

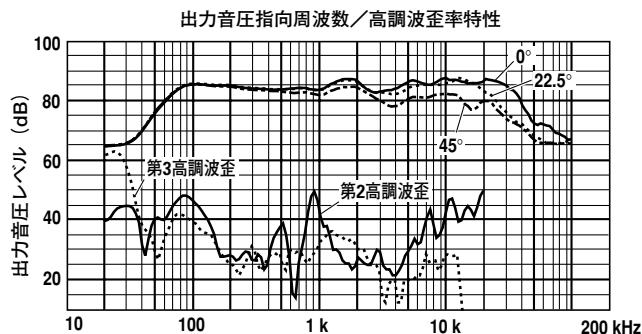
さらにグレードの高い接続法としてバイアンプ接続があります。バイワイヤリングの時と同様に入力端子板の短絡コードを完全に外した状態で、低音用入力端子には低音専用アンプの出力を、高音用には高音専用アンプの出力を接続します。

仕様

形式 .... 位相反転式、ブックシェルフ型防磁設計(JEITA)
スピーカー構成 .... 3 ウェイ方式
ウーファー .... 16cm コーン型
ミッド/ トゥイーター
.... 同軸13cm コーン型/ 3cmドーム型
公称インピーダンス .... 6 Ω
再生周波数帯域 .... 40～50,000 Hz
出力音圧レベル .... 87 dB/W(1m)
許容入力
最大入力(JEITA) .... 160 W
クロスオーバー周波数 .... 300 Hz、3 kHz
外形寸法................. 230(幅) x 428(高) x 298(奥行) mm
質量 .... 15.4 kg

付属品 .... スパイク x 3
スパイク受け x 3
取扱説明書 x 1
保証書 x 1
ご相談窓口・修理窓口のご案内 x 1

- 上記の仕様および外観は改良のため予告なく変更することがあります。
- 本製品は、GP Acoustics (UK) Ltd.及びその関連会社が所有する日本特許第2766862号の請求範囲に入ると解釈される可能性を考慮して、同社からライセンスを受けた製品です。KEF及びUNI-QはGP Acousticsグループ会社の登録商標です。

保証期間中（一年間）、および保証期間経過後の修理についてはお買い上げの販売店にご相談ください。なお、本機の補修用性能部品の保有期間は、製造打切後8年間です。補修用性能部品とはその製品の機能を維持するために必要な部品です。

出力音圧指向周波数特性／高調波歪率特性

グリルネットの着脱

このスピーカーシステムは前面のグリルネットを取り外すことができます。グリルネットを着脱するときは、次のように行ってください。

① 外すときはグリルネットの下側を両方の手で持ち、手前に軽く引っぱってグリルネットの下側を外します。
② 同じように、グリルネットの上側を手前に引っぱるとグリルネットは本体から外れます。
③ 取り付けるときは、グリルネットの四隅にある穴部を本体の突起部に合わせて、押し込みます。

ご注意

- 防磁設計（JEITA）ですのでテレビやモニターと組み合わせても色むらが起こりにくくなっています。まれに設置のしかたによっては色むらを生じる場合があります。その場合は一度テレビの電源を切り、15～30分後再びスイッチを入れてください。その後も色むらが残るようでしたら、スピーカーをテレビから離してご使用ください。

このスピーカーシステムのキャビネットの仕上げには、天然木材が使われています。このため、塩ビ化粧材などに比べ色の艶や深みなど素晴らしいものがあります。これらは天然材のため、同じ柄のあるものは2つと存在しません。この点をお含みくださり、ご使用をお願いいたします。

パイオニア株式会社　〒 153-8654 東京都目黒区目黒1丁目4番1号